

【2025年度事業計画書】

(公益目的事業1) 次代を担う青少年の健全な育成に資する事業

1. イオン チアーズクラブ(予算：2億6,180万円、昨対103%)

自然環境や社会貢献活動などに興味や関心を持ち、考える力を育む場として、小中学生を中心に国内の店舗を拠点とし、体験学習を行っています。各クラブは「環境・社会」に関する独自のテーマに沿って活動を行い、1年間の成果を壁新聞に取りまとめています。

(1) 本年度の主な取り組み

メンバー数の拡大ならびに未稼働クラブの活動再開と、1クラブ当たりの活動回数を増加させるため、以下4点に重点を置いて取り組んでまいります。

①メンバー数の拡大と活動回数の増加

メンバー定員数の少ないクラブについて、各社および各店舗での受け入れ体制の充実を働きかけ、定員数を引き上げることでメンバー数を拡大します。また、活動回数の少ないクラブへ地域の協力団体などを紹介するほか、各クラブが行う好事例の共有を通じて、活動機会の増加を支援します。

②「三木里脇チアーズ農園」の開園

「牛久チアーズ農園」、「宮城大学チアーズ農園」に続き、3つ目となる「三木里脇チアーズ農園」を開園します。今後も、現地の農家などと協働し、全国の子ども達に種や苗から栽培し、収穫するまでの一連の過程を体験できる場を提供してまいります。

③イオン チアーズクラブコーディネーターとの情報共有

2024年度に実施した研修会後のアンケートで要望が多かった「子どもとの接し方」や「活動計画の立て方」などをテーマに、各エリアでの集合研修もしくはオンライン勉強会を実施し、学びの機会を提供するとともに、コーディネーター同士の交流の機会を設けます。

④SNSを活用した告知強化

2024年度に引き続き、InstagramなどのSNSを活用した告知を強化し、イオン チアーズクラブの認知度を高め、入会への動機づけを行います。

2. 中学生作文コンクール(予算：4,710万円、昨対109%)

多感な時期といわれる中学生が環境に関する社会問題をテーマに自分自身の考えをまとめ、書く力を養うことを目的に、2003年から実施しています。

本事業の認知度は着実に高まってきており、過去2年間の応募数はいずれも7,000作品を超え、本年度で応募総数累計は約40,000作品となる見込みです。

(1) 本年度の主な取り組み

①応募作品数の増加

本事業の知名度向上や賞の魅力向上に加え、募集開始時期に合わせて過年度の応募校へ募集要項を送付するなど、さらなる応募作品数の増加を目指します。また、ウェブ広告やInstagramなどのSNSを活用して告知を強化します。

②「環境大臣賞」の申請

本事業では環境をテーマとした作文を募集することから、昨年の「文部科学大臣賞」に加え、「環境大臣賞」の申請に向けて環境省に働きかけを行います。

(2) 募集・審査および表彰式スケジュール

募集期間 2025年6月～9月上旬

審査期間 2025年9月中旬～10月下旬

表彰式 2025年11月22日(土)～24日(月・祝) (環境エコツアー含む)

3. イオン エコワングランプリ(予算：5,360万円、昨対107%)

全国の高校生がクラブ単位で取り組んでいる環境保全や社会貢献に関する活動の発表を行い、表現力や発信力を向上させるとともに、優れた事例を見聞きすることで、新たな取り組みに繋げることを目的に2012年から実施しています。

(1) 本年度の主な取り組み

① SNSや活動事例動画を活用した告知

ウェブ広告やInstagramなどのSNSにて告知を実施するほか、2024年度の受賞校の活動紹介動画を製作し、YouTubeで配信するなどの告知を行います。

② 事前説明会・エリアミーティングの開催

- ・募集開始時期に合わせて対面やオンラインで、イオン エコワングランプリの目的やコンテスト概要についての説明会を実施します。
- ・全国の主要都市圏を中心に、参加者同士が実際に環境保全活動を実践する場の提供や、自らの取り組み事例を共有し、意見交換を行うエリアミーティングを実施します。
- ・高校生が交流を通じて、研究内容の深掘りや今後の新たな取り組みのきっかけをつかむ機会を創出します。

(2) 参加対象：クラブ単位で環境に関する活動をしている高校生(団体応募)

(3) 募集・審査および表彰式スケジュール

募集期間 2025年7月～8月

審査期間 2025年9月～11月中旬

最終審査会・表彰式 2025年12月13日(土)～14日(日) (環境エコツアー含む)

4. イオン・ユニセフ セーフウォーターキャンペーン

(予算：6,365万円、昨対121%)

カンボジア、ラオス、ミャンマーの一部地域では、遠方への水汲みに時間をとられ、学校に通えない子どもたちがいます。これらの地域に安全な水を届けるため、2010年から(公財)日本ユニセフ協会と協力して全国から寄せられた募金にマッチング寄附を行い、支援を実施しています。

(1) 本年度の主な取り組み

① キャッシュレス募金

寄附企業のショッピングセンターやスーパーマーケットのレジ周りに募金箱を設置するほか、現金の取り扱い減少に伴い、キャッシュレス募金の仕組み作りを行います。

② 告知の強化

ポスター掲示やデジタルサイネージなどを実施し、より多くのお客さまに当該国の水の問題を知っていただき、社会貢献活動への参画を促してまいります。

③ 支援対象国での贈呈式の開催

2024年度はカンボジアで寄附金贈呈式を開催し、現地政府や日本大使館関係者に活動内容の周知を行いました。本年度は、今後3ヶ年に亘って支援を行うカンボジアおよびラオスにて寄附金贈呈式を開催し、現地での本事業の認知度向上に努めます。

(2) 募金実施期間：2025年4月16日(水)～6月15日(日)

5. 近野教育振興基金(予算：2,560万円)

(公財)近野教育振興会の教育支援による社会貢献を目指すという思いを受け継ぎ、同振興会より奨学生支援事業を近野教育振興基金として継承しました。継承を機に、対象をこれまでの米沢市から山形県置賜地方に所在する高等学校に在籍する高校生へ拡大します。さらに、大学への進学を志す同地方の高校3年生を対象とする大学生奨学金を新設し、本年度から募集を開始いたします。

(1) 募集人数

- ①高校生奨学金 60名(各学年20名)
- ②大学生奨学金 5名

(2) 支給内容

- ①高校生奨学金
 - a. 支給額 月額2万円
 - b. 支給期間 決定年4月～翌年3月までの1年間(最長3年間)
- ②大学生奨学金
 - a. 支給額 月額5万円
奨学生内定者に受験料として最大10万円
合格した奨学生に入学一時金10万円
 - b. 支給期間 最短修業年限に相当する期間(最長6年間)

(3) 募集方法

高等学校の奨学金担当窓口を通じた応募(団体応募)または、高校生本人からの応募(個人応募)とします。ただし、大学進学を希望する高校3年生を対象とする大学生奨学金については、個人応募のみとします。募集要項は、ホームページや対象の高等学校と置賜地方の公共施設に掲示し、告知いたします。

(4) 選考方法

選考委員会による選考を経て、理事会で奨学生を決定いたします。本年度の選考委員は以下の9名といたします。

役職等	氏名	現職等
選考委員長	鈴木 佐知子	元(公財)近野教育振興会理事長
選考委員	大河原 真樹	前米沢市副市長
選考委員	岸 順一	米沢中央高校、臨時教諭
選考委員	齋藤 榮助	(株)大丸石油 社長
選考委員	佐藤 健一	元(公財)近野教育振興会常務理事
選考委員	鈴木 茂伸	元(公財)近野教育振興会理事
選考委員	土屋 宏	元米沢市教育長
選考委員	樋口 哲弘	元小学校校長
選考委員	佐々木 真理子	(公財)イオンワンパーセントクラブ事務局長

(5) 実施スケジュール

- ①高校生奨学金
 - 募集期間 2025年 4月～5月中旬
 - 選考期間 2025年 5月中旬～6月中旬
 - 交付式、支給開始 2025年 7月12日(土)(4月分より遡及して支給)
- ②大学生奨学金
 - 募集期間 2025年 8月～9月中旬
 - 選考期間 2025年 9月中旬～10月下旬
 - 交付式 2025年 11月8日(土)
 - 支給開始 2026年 4月

(公益目的事業2) 諸外国との友好親善の促進に資する事業

1. ティーンエイジ アンバサダー(予算：1億3,000万円、昨対161%)

(交流相手国を2カ国とする計画)

将来を担う日本と海外の高校生が、お互いの国の訪問を通じて文化や歴史に対する理解を深め、グローバルな感覚を身につけるとともに友好親善を深め、両国の架け橋となることを目指す交流プログラムです。

(1) 本年度の主な取り組み

ティーンエイジアンバサダーを公益目的事業2の重点事業として取り組みます。

寄附企業からもご要望を多くいただいていることから、本年度は、交流相手国を中国およびマレーシアの2カ国として実施したく考えております。

①中国との取り組み

昨年度に引き続き北京市および長沙市で実施し、学生たちの交流を通じた両市人民政府との継続的な関係構築を図ります。また、首相官邸や外務省、日本国大使館、中国外交部をはじめとする政府機関への表敬訪問を行います。

a. 日本プログラム

- ・期間：2025年7月14日(月)～19日(土)
- ・概要：首相官邸、外務省への表敬訪問
中華人民共和国駐日本国大使館への表敬訪問および歓迎会の開催
日本の歴史や文化に触れる体験やホームステイでの交流

b. 中国プログラム

- ・期間：2025年10月13日(月・祝)～18日(土)
- ・概要：中国外交部や人民政府への表敬訪問
在中国日本国大使館への表敬訪問および歓迎会の開催
中国の歴史・文化に触れる体験やホームステイでの交流

c. 参加人数

日本から40名と中国から40名、計80名の高校生

②マレーシアとの取り組み

外務省やマレーシア大使館などの政府機関への表敬訪問を行い、学生たちの民間交流にて友好親善の促進に努めます。

a. 日本プログラム

- ・期間：2025年11月10日(月)～15日(土)
- ・概要：外務省への表敬訪問
在日本マレーシア大使館への表敬訪問および歓迎会の開催
日本の歴史・文化に触れる体験やホームステイでの交流

b. マレーシアプログラム

- ・期間：2026年1月19日(月)～24日(土)
- ・概要：マレーシア政府への表敬訪問
在マレーシア日本国大使館への表敬訪問および歓迎会の開催
マレーシアの歴史・文化に触れる体験やホームステイでの交流

c. 参加人数

日本から20名とマレーシアから20名、計40名の高校生

2. アジア ユースリーダーズ(予算：5,800万円、昨対107%)

アジアの将来を担う高校生たちが、グローバルな感覚を養い、価値観の多様性を学ぶとともに、リーダーに必要な問題解決力や自発的な行動力を高めることを目的に、共通の社会問題について英語で議論するプログラムです。

(1) 本年度の主な取り組み

2019年からカンボジアの高校生が本事業に参加しているほか、現地政府や教育省などの教育関係者からも本事業に高い関心をいただいております。この度、現地において各国の高校生を受け入れていただく体制が整ったことから、本年度はカンボジアにて開催したく考えております。

①事前説明会・勉強会（オンライン）

- a. 各国の参加者が自己紹介や互いの課題認識の共有などを通じて、チームの一体感の醸成を目指します。
- b. 事前勉強会においてプレゼンテーションスキルを学ぶほか、テーマに関する問題点を各自で調査していただきます。

②本番プログラム

- a. レクチャー受講や視察を通じて、テーマに関する知識を身につける。
- b. テーマについてチームディスカッションを行い課題の検討および改善策を纏める。
- c. 成果発表会で改善策を発表し合い、審査員や現地政府の参加者に提案する。

(2) 実施期間・場所

①事前説明会・勉強会（オンライン）

- a. 事前説明会・勉強会1回目 7月26日（土）
- b. 事前勉強会2回目 8月2日（土）

②本番プログラム

2025年8月18日（月）～23日（土）カンボジア・プノンペン

(3) 参加人数：開催国の日本、カンボジアから各16名

インドネシア、タイ、中国、ベトナム、マレーシア、ラオスから各8名
合計 高校生80名

3. イオン スカラシップ(予算：3億1,720万円、昨対121%)

(日本人大学生向け奨学金の支給を開始する計画)

将来日本と母国の架け橋として活躍することを目指す学生を支援するため、日本の大学で学ぶアジア各国からの私費留学生と、アセアン・中国で学ぶ各国の大学生を対象に、2006年から実施しています。本年度は約560名の学生に奨学金支給を予定しており、これまでに支援した学生は累計で約10,000名となる見込みです。

(1) 本年度の主な取り組み

- ①日本人大学生向け奨学金支給の開始(第2号議案が決議され、内閣府の変更申請認定後に開始)
2025年に当財団設立35周年および本事業が20周年を迎えることを機に、将来グローバルに活躍するリーダーを志す日本人大学生に奨学金の支給を開始いたします。
 - a. 日本の大学における日本人大学生向け奨学金
 - ・支給対象 イオン スカラシップを支給している14大学にて国際関係や外国語および情報・技術関係等を学ぶ日本人大学生
 - ・支給内容 学費相当分(約100万円/人)
 - ・支給期間 2年間
 - ・支給人数 各校1名、合計14名
 - ・年間予算 約1,400万円(2年目以降は約2,800万円)
 - b. アセアン・中国に留学する日本人大学生向け奨学金
 - ・支給対象 イオン スカラシップを支給している26大学で学ぶ日本人大学生
 - ・支給内容 学費と生活費相当分(約115万円/人)
 - ・支給期間 2年間
 - ・支給人数 各校1名、合計26名(該当者不在の場合は除く)
 - ・年間予算 約3,000万円(2年目以降は約6,000万円)
- ②アセアン・中国の大学生向け奨学金支給
 - a. 日本の大学に留学している大学生への支給
比較的人数の少ないアセアン各国の奨学生については、大学や大使館と密に連携し、優秀な学生の推薦を依頼してまいります。
 - b. アセアン・中国の現地大学生への支給
現在支給しているアセアン・中国の6カ国に加え、アジアの主要国・エリアであるマレーシアおよび香港にて、現地法人とともに奨学金の支給開始を検討しています。これまで同国・エリアでは、現地法人が独自で支給しておりましたが、今後は、当財団からマッチングを行い支給することで現地の優秀な学生の支援をいたします。
- ③日本語スピーチコンテストの開催
奨学金事業の一環である「日本語スピーチコンテスト」について、昨年に引き続き、インドネシア、カンボジア、タイ、中国、ベトナム、マレーシアの6カ国で開催します。本年度より、中国においてはイオン スカラシップを支給している奨学生全員、そして、アセアン各国においては日本語を学ぶ奨学生を対象に、本コンテストの参加を必須とします。また、コンテストの上位入賞者は、日本の大学に留学する際のスカラシップ優先候補としてまいります。
- ④20周年記念事業(イオン スカラシップ20周年記念事業積立資産：1億2,000万円)
本年度20周年を迎えるイオン スカラシップ事業の祝賀行事として歴代および現在の奨学生ならびに関係者などを招いて20周年の軌跡を振り返るとともに、当財団とのネットワークの強化を通じて人的財産を構築いたします。

(公益目的事業3) 地域社会の持続的発展に資する事業

1. ふるさと未来支援(予算：1億4,900万円、昨対160%)

(ふるさと振興・発展のための主催事業、里山再生事業を実施する計画)

ふるさとに受け継がれ、未来に引き継ぐべき伝統文化・工芸技術の普及および継承に取り組む団体を支援します。また、少子化や核家族化が進む現代において、乳幼児から未就学児の子育てをしている人々へ新たな気づきを得る場や悩み事を相談する機会を提供し、より良いコミュニティづくりを支援します。

(1) 伝統文化・歴史風土の継承のための助成

① 本年度の主な取り組み

- a. 本助成事業の周知・認知度向上に向け、(公社)全日本郷土芸能協会をはじめ伝統文化の継承活動を進める団体の広報誌やホームページ、インスタグラムなどのSNSにて告知を行います。
- b. 助成先における助成金の活用状況や広報物での当財団のPR状況を現地確認いたします。

②対象期間：2025年4月1日(火)～2026年3月31日(火)

③参加対象：日本国内の地域文化・工芸技術の継承活動の実施団体

(2) ふるさとの振興・発展のための主催事業

① 本年度の主な取り組み

地域で受け継がれている民族芸能の公演を開催し、自らの「ふるさと」の魅力を発見するとともに、愛着と誇りを持つことを目指します。

②告知：開催地域のショッピングセンターへのポスター掲示、ホームページ、SNS、地域の自治体や教育委員会などを通じて告知を行います。

③実施時期：2025年10月、12月(年2回)

④参加対象：開催地域周辺にお住いの方

(3) 里山再生事業

① 本年度の主な取り組み

(公財)イオン環境財団と協力して、子どもたちに学びや里山を体験できる場となり、地域社会の持続性に結びつく「新しい里山」づくりへ参画いたします。

②実施時期：2025年4月1日(火)～2026年3月31日(火)

(4) イオン すくすくラボ

① 本年度の主な取り組み

a. 全国の主要都市圏を中心に、その地域の協力団体とのネットワーク構築に取り組み、日本全国でイベント開催に繋げるとともに、開催頻度を高め、本事業の認知度向上を図ります。

b. イベント内容は、育児に関するお悩み相談会や個別相談会などで子育て世代をサポートするとともに、乳幼児向けの手遊びや体操を取り入れ、親子で楽しめる機会を提供します。

②実施時期：年8回

③参加対象：開催地域周辺の乳幼児や未就学児とご家族

2. 災害復興支援(予算：1億1,530万円、昨対90%)

大規模災害により被災した方々が、日常の生活を一日でも早く取り戻せるよう復旧・復興を支援してまいります。国内外で発生した災害の被災地において、復旧・復興活動にお役立ていただくため、迅速な緊急支援金の寄附などを行ってまいります。

(1) 本年度の主な取り組み

①迅速な緊急支援の実施

近年増加している自然災害などにより甚大な被害が発生した際には、速やかに支援を進めてまいります。

②首里城復興支援

火災により甚大な被害を受けた首里城へ合計5億円を寄附する5年計画が2024年度で終了しました。2026年秋に予定されている首里城正殿の復元完成に向け、本年度も引き続き、以下の支援を継続してまいります。

- a. イオン チアーズクラブ首里城復興支援ポスターコンクールを開催し、入賞者を沖縄県へ招待し、表彰式を開催します。本年は、沖縄県の後援および県知事賞の申請に向けて働きかけを行ってまいります。
- b. 全国のショッピングセンターを巡回する「首里城復興祈念展」を開催し、首里城の復興状況を全国に伝えてまいります。

3. 公益法人への支援 (予算：1,600万円、昨対100%)

地域の発展に貢献するとともに、子どもたちの情操教育に繋がる活動として、青少年育成活動団体への支援を継続的に行ってまいります。

(1) PMF札幌への助成

①本年度の主な取り組み

メインスポンサーとして協賛するとともに、札幌および東京にてイオン チアーズクラブメンバーがオーケストラメンバーとの交流や楽器演奏を体験するツアーを実施いたします。

②実施期間：2025年7月9日(水)～7月29日(火)(予定)

③助成対象：(公財)パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会

(2) セイジ・オザワ松本フェスティバルへの助成

①本年度の主な取り組み

プラチナ会員として協賛するとともに、松本エリアにおいてイオン チアーズクラブメンバーがオーケストラメンバーとの交流や楽屋や舞台装置の見学体験をするツアーを実施いたします。

②実施期間：2025年8月9日(土)～9月3日(水)(予定)

③助成対象：(公財)サイトウ・キネン財団

その他、当財団の設立主旨、目的に合致する事業を行う公益法人の活動支援を行います。

管理費（法人会計）（予算：7,910万円、昨対88%）

1. 広報活動

（1）概要書・活動報告書

概要書および四半期ごとの事業活動をまとめた活動報告書の内容および質の向上に取り組めます。また、リーフレットを新規で作成し、多言語対応することで配布先を拡大して認知度の向上につなげてまいります。

配布先：寄附企業各社、取引先、官公庁、自治体、学校や個人などの事業参加者、個人寄附者など

（2）ホームページの閲覧回数の向上

- ・ 2024年度から開始した環境や社会への理解を深めるコラムを週に一度公開することでホームページの掲載情報を増加させ、閲覧回数の増加を図ります。
- ・ ネットへの広告掲載やSNSを活用した情報発信の頻度を高めて露出を増やし、ホームページへ誘導することで、当財団の事業活動や事業目的を、より多くの方に伝えてまいります。

（3）海外イベントへの参加

大使館や各省庁が主催するベトナム、カンボジア、中国などの各国のフェスティバルに出展し、当財団の活動について周知するとともに、各国の大使館や省庁との連携強化を図ります。

（4）会員データベースの整備

当財団の活動への参加者や活動に興味をお持ちの方々の情報を取りまとめたデータベースを活用して当財団の事業活動についての情報発信を行います。また、お客さまが自身で登録内容の更新を可能にするなど、当財団と繋がり続けられる仕組みを充実させます。

2. 寄附及び協賛

公益目的事業以外で、当財団の事業目的に沿った活動や団体に対して実施いたします。

3. 団体会費（活動支援の寄附として）

- | | |
|-------------------|-----------|
| （1）ジャパンプラットフォーム | 会費予算：30万円 |
| （2）公益財団法人花と緑の農芸財団 | 会費予算：22万円 |
| （3）公益財団法人公益法人協会 | 会費予算：12万円 |

以上